

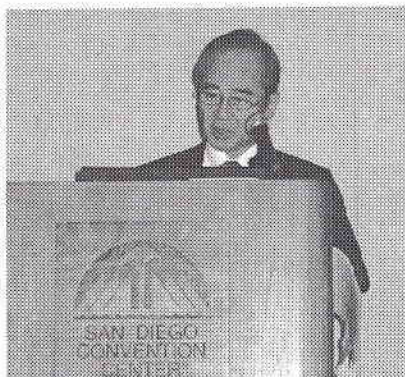
## Ⅱ 和田科学技術政策研究所長 Ⅱ

### アメリカ科学振興協会(AAAS)年次総会で講演

科学技術政策研究所の和田智明所長は、2月21日に、米・サンディエゴのコンベンションセンターで開催されたAAAS(アメリカ科学振興協会)の年次総会で「地球的重要課題に取り組む東アジアの科学技術」と題したシンポジウムで講演した。AAASは科学者の交流、科学界からの情報発信、科学教育サポート等を目的とするアメリカ最大の学術団体で、「サイエンス」誌の出版元としても知られている。

シンポジウムはヒル・ジョージメーソン大  
学名誉教授をモデレーターに迎え、科学技術  
政策研究所が中国、韓国の研究所と協力して  
企画したもので、和田所長は、「日本の科学  
駆動型イノベーション政策の新たな時代」と  
題して、科学技術・イノベーション政策の新  
たな展開、グリーンイノベーション、科学技  
術人材育成について、科学技術基本計画フ

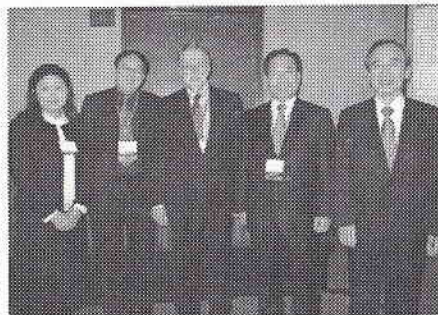
ローアップ研究の成果を中心に講演。引き続き同研究所の長野総括上席研究官、穆・中国科学院科学技術政策管理研究所長、金・韓国科学技術政策研究所長が講演を行った。  
パネルディスカッションでは「日本は博士課程卒業生等若手研究者をもっと海外に送るべき、また大学で英語による教育プログラムを行う体制を強化すべきではないか」、「地球温暖化についての科学的根拠をどの程度信頼しているのか、国際的な環境科学技術協力は競争なのか協調なのか」等多くの質問が出され、和田所長は、大学における海外の研究者、留学生の受け入れ体制の充実、日本の先進的環境技術の海外への普及協力等、丁寧に回答した。また、前日には同研究所とJSTの共催で懇親会が開催され、米国科学技術関係者等100人以上との交流、懇親が行われた。



講演する和田所長



パネルディスカッション  
(中央が和田所長)



終了後の記念撮影(左から長野上席研究官、穆所長、ヒル教授、金所長、和田所長)